

# 生きる仲間

第4号



札幌腎臓病患者友の会

## 目次

第四号発刊に際して	.....	細川哲夫	1
旅行スナップ	.....		2
ソフトボール大会スナップ	.....		3
腎友会に寄せて	.....	伊藤建雄	4
腎友会に寄せて	.....	清水清	5
役員紹介	.....		7
会則	.....		8
寄稿 川柳	.....	沼山三平	10
病院紹介	.....		11
寄稿 私の闘病記録	.....	江良勲	23
腎臓病患者の実態調査	.....		24
編集後記	.....		26

カット  
横田重男



## 第四号発刊に際して

札幌腎友会会長 細川 哲夫

此のたび七月の役員改選により会長をお引受けすることになりましたので、第四号発刊に際し、所感を述べさせていただきます。

札幌腎友会も結成して以来三年を経過し、前役員各位のご尽力と会員各位のご協力により今日に至って参りましたが、その間諸般の事情により必ずしもその歩みは順調に発展をとげたとは、残念乍ら申せない状態かと存じます。

そこで、私共、新執行部では今後の腎友会のあり方について、広く会員の意志と統一を図る為、これ迄各病院の幹事の方々にお集りを頂き、諸問題の検討を重ねて参りました。これ迄では会の組織作りの基礎的な作業が多く山積いたしておりましたが、ようやく区切がつかまりましたので本紙の発行を機に「腎友会だより」を定期的に発行し会員相互の理解と情報の交換にお役立てしたいと考えております。

特に近年、透析患者が全国的にも激増の傾向にあり、全医療費の三割を越える状況にあり将来公費負担制度、あるいは透析機材の使用回数等各種の規制がないとは申せません。又生活面での問題点として「社会復帰」とこの「医療費問題」の解決を図る為にも当然「腎移植」の積極的推進が図られるものと思えます。これら私共にとって関係の深い事項や又現在抱えている問題についても関係各位のご指導をお願いして参りたいと思えます。

本紙は札幌腎友会の全貌をお知らせするため、組織内容の外、日夜お世話下さっている病院の紹介等関係の深いものを記載しましたが、次号からは皆様の積極的な投稿やご批判をお願いし皆様と共に当会の発展に寄与したいと存じます。

9月26日、小樽水族館へのバス旅行のスナツプ



全員そろって//ハイチーズ//



皆がそれぞれ弁当を持ち寄って昼食

宝探しに興じて



<10月10日>ソフトボール大会のスナツプ

---

---



一生懸命走ったけど？

とんだ、とんだ  
どこまでとぶや  
ら



ひっくりかえって  
一回転！  
セーフになったけ  
ど、泥だらけ

## 腎友会に寄せて

北海道難病団体連絡協議会

事務局長 伊藤 達雄

札幌腎友会が北海道難病団体連絡協議会の加盟団体となつてから、二年が経過しました。その間に腎友会にもいろいろな仕事を分担してもらいましたが、まだ多くの会員の方は「難病」と腎友会の結びつきを納得されていない方もいるのではないかと思います。それほど「難病」という言葉は一般的ではないし、何か不吉な感じを与える言葉であるからかも知れません。日常この言葉を使っている私たちも、別な表現に早く替えたいと思つてはいるのですが、「難病」という言葉でしか一般の人々へはなかなか理解してもらえませんし、またこの言葉に充分替るだけの表現も今のところありません。つまりは、今日の、日本の医療と福祉の概念から、言いかえれば対策からはみ出たものだからなのだと思います。

北海道難病連が今何をやるうとしていいのか、どのような活動をしているのかは、季刊で各加盟団体会員

に直接送っている「なんれん」をお読みいただければ分ることと思います。また役員の方々へは更に詳しく「難病連お知らせ」を随時お送りしておりますし、理事会や部会・委員会を通じて各団体の意見が反映される仕組みとなつております。会員の方々に直接参加していただける場としては、難病患者・障害者と家族の全道集会を毎年開催し、さらに、明年度からは全団体が合同レクリエーションを開こうと計画しております。しかし、建前はそうだとしても、実際には団体によつては難病連への行事に参加されないところ、あるいは役員だけが申し訳程度にしか出ていないところもあります。これは「難病とは何か」、難病連の運動とは何かということについて、いろいろ努力はしているのですが、さらにつきつめた話し合いが、我々難病連加盟団体の代表者の間で、理事会で、充分には果たされていないからだろうと思えます。そのことを充分に反省しながら、なお皆様の各会の会員の一人ひとりの方々のご意見や要望が各会を通じて、また直接に難病連へ届くことが大切だと思います。

病気とのつき合いと同様に、難病連と皆様とはこれからも長いつき合いとなるでしょう。

## 腎友会に寄せて

北海道医療社会事業協会々長

清 水 清

札幌北クリニック  
医療ソーシャルワーカー  
道、難病相談員

人間的なきずなを結ぶなかで、治療への希望、障害への克服と自らの組織をつくり活動されている皆さんに深い敬意と悦びを感じます。

さて皆さんに私達の職域団体であります「北海道医療社会事業協会」をそして「医療と福祉」を医療の場での相手とされる「医療ソーシャルワーカー」(MSWと呼ぶこともあります)の名を知っていますか、私の日常業務に感じますことはあまり耳慣れたものとなっていないようです。

……「折角皆さんのよき相談相手」と張り切っているも……

そこでこのたびは私達が皆さんのかゝわりにおける役割という事で紹介をこの稿としました。

先づ一般的には患者、家族の方々が疾病や障害との生活の中で苦痛の排除、必要とする医療の確保、人間

としてふさわしい生活の保障などにおける問題解決をはかる過程で共に考え、よりよい解決に努力することが役割と考えられています。

そして私達はこの業務を果たすため病院や診療所、保健所(現在札幌市各区保健所に医療社会事業部が設置されています)等の医療機関、行政部門等の一部に配置されています。

こゝで更に腎機能障害者対象の場合極めて多岐に亘るものでありますが、具体的事例の中から極めて重要とおもわれることについて1、2を申し上げます。

(1)腎疾患々者の方々が人工透析療法に入ることにより、身体障害者の処遇を受け「医療と福祉」の制度を活用することが望まれます。

この場合、人工透析開始日が廃疾認定基準として年金受給権が発生いたしますが、国民年金では更に廃疾認定日以前において保険料の納入(一ケ年)がされていることが条件としてありますので、透析に入る以前に所要の条件を満たすことが必要です。

私の所属するクリニックでは新患の来院がありますと、必ず院長先生の治療方針、指示とともに患者さんの紹介がありますので、透析に先だち、インタビュー面接、オリエンテーションを実施していますが、

このことは上記のはじめで経験する障害者の方々への処遇には極めて有効であると考えています。

(2) また人工透析療法を受ける方々の社会復帰の問題は極めて重要であります。

透析療法は延命のためのものでなく、社会復帰を最終目的とするものであれば私共ワーカーの努力を費す重点でもありません。

(イ) 雇用労働者の場合

事業主側の制約もあり大変むづかしい場合が多いのですが、透析についての理解を求め職場復帰を促すこととしていきます。

(ロ) 未就労者の場合

透析という制約されたもとで働く職場を探す努力を共に始める。

アフタケヤー施設の利用、公共職業安定所福祉事務所、更生相談所等の身体障害者福祉司等の協力を得ることに努め、職業訓練施設の利用をはかる。

(3) そのほか家庭問題にあつては正確な知識情報の提供、必要により家裁の利用をはかる場合もあります。また、「意志の強さ」を生涯要求される透析受療者の日常の悩みには充分耳を傾け「カタリシス」のため

ケースワーク、カウンセリングに時間をかけます。以上のほか私達は常に社会資源の充実に目をむけ、あるときはソーシャルアクションに参加などの使命をもつものと考えています。

むすびとして理解していただきたいことは、これ等の役割機能は透析医療の中に単独するものではなく医師、看護婦、メデイカルテクニシャン、栄養士、薬剤師等の専門分野の責任と能力を結合されはじめてその効果が期待されるものであります。その意味で私達お互いは常に手をにぎり合つて皆さんを中心に取り巻きその成果を共に期待しているのです。

皆さん私達は熱意を捧げます。頑張ってください。





# 役員紹介

去る七月十八日、第三回総会が開かれ、その席上、新役員が承認され、次の通り決定された役員及び会則をお知らせします。

## (1) 役員

会長	細川哲夫（札幌北クリニック）
副会長	江良勲（北大）
事務局長	留目英生（札幌北クリニック）
総務部長	鈴木啓三（"）
" 次長	福士博明（"）
教育広報部長	阿部隆（いのけ医院）
" 次長	福士博明（札幌北クリニック）
文化厚生部長	大西政弘（田島クリニック）
" 次長	村本徳雄（札幌北クリニック）
会計監査	赤松明（市立病院）
"	堀光子（幌南病院）
各幹事	堀川勝男（いのけ医院）
"	渡辺千鶴子（幌南病院）
"	荒田三朗（"）
"	後藤田智樹（国立西札幌病院）

## 各幹事

"	藤田勉（国立西札幌病院）
"	西嶋重夫（佐藤医院）
"	荒木守（札幌北クリニック）
"	古賀貞二（"）
"	内田敏夫（市立札幌病院）
"	阿部清則（自衛隊病院）
"	阿部栄（田島クリニック）
"	棟方正一（戸沢医院）
"	武田誠剛（"）
"	小山保順（中野医院）
"	（病院の中で、一ヶ月交替の持ち回り）
"	横道トミ（北辰病院）
"	鷲頭重男（"）
"	阿部清則（宮岸医院）
"	木田重信（宮の森脳神経外科病院）

# 会 則

## 第一章 総 則

### (名 称)

第一条 この会は札幌腎臓病患者友の会（略称・札幌腎友会）と称する。

### (事務所)

第二条 本会の事務所は会長が所属する人工腎臓センターに置く。

### (連合体)

第三条 本会は各人工腎臓センターの連合体組織とする。

## 第二章 目的及び事業

### (目 的)

第四条 本会は会員相互の友愛と信義にもとづき強固な団結の力を結集し、健康の維持、増進、その他社会的、経済的地位の向上を図ることを目的とする。

### (事 業)

第五条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業

を行なう。

- 一、 団結強化に関する事項
- 二、 福祉法の調査研究
- 三、 食生活の改善情報の交換
- 四、 関係機関又は団体との連絡
- 五、 疾病に関する医学知識の学習
- 六、 その他目的達成のため必要な事項

## 第三章 会 員

### (会員の範囲)

第六条 本会の会員は次の通りとする。

- 一、 正会員 本会の趣旨に賛同した腎臓病患者であること。
- 二、 賛助会員 本会の趣旨に賛同した理解者又は法人

### (会員の権利)

第七条 会員は次の各号に定める権利を有する。

- 一、 役員を選挙し又は選挙されること。
- 二、 役員を辞し又は解任を求めること。
- 三、 本会の各会議に出席し報告を求め、質問意見の発言をなし議決すること。
- 四、 各会議の議事録を閲覧すること。

五、会計書類を閲覧し、会計監査の公表を求めると。

六、各種事業活動による利益を受けること。

(会員の義務)

第八条 会員は次の各号に定める義務を負う。

一、規約および機関の決定を守ること。

二、規約または機関で定められた会費を納めること。

三、機関および会議に出席し、または投票に参加する。

#### 第四章 機関

(機関の種類)

第九条 本会に次の機関を置く。

一、総会 本会の総会は年一回以上開催する。総会は全体総会とする。尚、文書による発言、委任状による出席もこれを認める。

二、幹事会 幹事会は総会につぐ議決機関で年二回以上開催するものとし、その議決は次の総会で承認を受けるものとする。

三、運営委員会 会の運営は運営委員会において行ない、その運営は次の幹事会において承認を受けるものとする。運営委員は幹事会の互選とする。

(会議)

第十条 前条の各機関は構成員のそれぞれ三分の二以上の出席をもって成立し、委任状による出席はこれを認める。

#### 第五章 役員

(役員)

第十一条 本会に次の役員をおく。

一、会長 一名

二、副会長 若干名

三、事務局長 一名

四、幹事 若干名

五、会計 一名

六、会計監査 二名

七、事務局員 若干名

(任期)

第十二条 役員任期は一年とする。

#### 第六章 会計

(経費)

第十三条 本会の経費は、会費、寄附金およびその他の収入によつて賄う。但し寄附金の受領には幹事会

の承認を得なければならぬ。尚、一旦納入した金品はこれを一切返却しない。

(会費)

第十四条 会費は年額一、二〇〇円とする。但し幹事会の決定によつて、その都度臨時徴収することができる。

(会計年度)

第十五条 本会の会計年度は毎年四月一日から翌年三月三十一日までとする。

(会計監査)

第十六条 会計監査は会計を年度末に監査し、その結果を幹事会または総会に報告しなければならない。

第七章 附 則

第十七条 この規約にもとづく諸規定および細則は幹事会の議決をへてこれを制定し、改廃する。

第十八条 この規約に疑義が生じたときは、幹事会で審議決定する。

第十九条 この規約は一九七六年四月一日から実施する。

寄稿

川柳

札幌北クリニック

沼山三平

当院の食事 美味しくみんな食べ

健康を祈つて食事 腕により

コッヘルに今日をご無事に針を刺し

判事補のひらき直つて法の中

二〇〇カイリ 仕切りにならぬ 三カイリ



# 病院紹介

## いのけ医院

所在地 札幌市中央区南十西六

代表者 猪野毛 健 男

設立年月日 S 四八・十・一

職員数

常勤医師……………一名

非常勤医師……………一名

常勤技師……………二名

// 看護婦……………十名

その他の職員……………九名

患者数 二十三名

男 十五名

女 八名

現在使用の人工腎臓の機種

D A C K M O D E L 4

K I I ・ K I 1 2

V I V A C E L L

当院は中央区南十西六の西向きで電車通りに面している五階建ての病院です。

皮膚泌尿器科であるため水曜日が外来等の手術日となっており、この日だけは透析は行なわれていません。

透析は月木組・火金組とに区分され行なわれていますが、月木は午前九時～午後三時までの組と午後三時～九時頃までの組とに分れ行なわれていますし、火金は午前九時～午後四時までの組で透析時間の延長組が六～七時間の透析を行っています。土曜日は午前中だけ行なわれています。当院の透析患者層は主婦と自営業の人が多く透析年数も三～四年の人が多くいます。

院長は透析の研究熱心な方なので、我々の自己管理には大変うる



さく透析開始直後に他の人々にも聞えるような大きな声で患者一人一人に検査結果の説明・注意・アドバイス等をこまごまとしてゆきます。このことが我々を良い透析へと結びつけていってくれていると思います。また看護婦さんも透析室には常時五〜六人いますが、開院以来からの人が多いので各自の透析中の状態を知っているので具合が悪くなる前に処置してもらえるので安心です。これからも先生やスタッフの意志に反しないように患者一同努力しなければならぬものと考えます。

## 幌南病院

所在地 札幌市豊平区平岸一条六丁目

代表者 院長 久永 二郎

設立年月日 昭和二十七年十一月二十八日

透析開始年月日 昭和四十六年二月

職員数 (透析従事者)

医師五名 外科医 河合 実智雄

〃 〃 奥野 利幸

〃 〃 金田 守

内科医 川合 栄邦

内科医 石沢 裕子

看護婦二名 主任 高松 澄子

病棟より一名

透析助手二名 安西 陽子

山本 千鶴子

栄養士、検査及レントゲン技士等は一般患者と

共通

患者数 十六名 (内女子四名)

現在使用している機種

HFK RPI5 DC7

メラC135 C140

透析ベット数

七ベット

透析日及時間

月曜日〜土曜日 昼間のみ 六時間透析

### 一、環境

地下鉄南北線平岸駅から北西に歩いて四〜五分のところには幌南病院がある。

かつてこの附近は平岸林檎園として開け、開院当時は延々と続くその林檎園の一面にポツンと建っている状態で、病院としては好環境に恵まれていた。

近年急速に都市化が進む中で病院の北側には木の花園地を手初めに着々とベッドタウン化され、さらに地下鉄の開通により地の利を得て高層マンションが林立した。かくして平岸林檎園はあえなくその姿を消して環境は大きく変ってきた。

## 二、現況

幌南病院は昭和二七年建立され、同年開院した。国家公務員共済病院として開院以来暫らくは結核を



専門にした療養所の性格を持っていた。現在は結核の衰たいや社会的要請などにより機構も変り、内科、呼吸器科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、歯科、放射線科の各科を擁し病床数三五二の病院になっている。病院の敷地は広大

で、かつての林檎園を数次にわたり買収したもので、現在は二二、〇〇〇を有し、まだ空地として放置している部分もある。

本館及び外来棟は開院後一部増築されたが当時の姿をとらめ、三病棟、五病棟なども、かなり年月を経たものである。その中で最も新しい新病棟は旧二病棟の跡地に建った鉄筋コンクリート三階建てである。その他比較的新しい建物には、手術室、レントゲン室、看護婦宿舎、厨房などがあり新旧入り組んで院内は迷路のようである。初めての来院者はちよつとまごつくかも知れない。

## 三、透析室

新病棟二階は外科病棟である。透析は外科に所属しているので透析室は外科病棟の一面にある。病室二部屋を通した広さで南に面しているのでとても明るい。ベッド数七でコイル三台、ファイバー四台である。透析日は日曜日以外全日、昼間だけで午前九時から午後三時まで大旨六時間透析である。部屋にはテレビの備付もあり昼食後など楽しむことができる。

透析には医師の他に常時四人の看護婦が当り、何れもベテランである。明るいまど、臨機応変な処

置、適切な指導、そんな中で我々は安心して透析を受けている。厚生省実習指定病院にもなっているの  
で、例年地方の病院からの研修もあり、益々充実し  
た透析に発展して行くものと思われる。

## 国立療養所札幌病院

所在地 札幌市西区山の手五条八丁目

代表者名 医師 菅原 宏 見

設立年月日 昭和四十七年六月二十三日

職員数 常勤・非常勤医師 四名

常勤看護婦 二名

患者数 六名（男五・女一）

人工腎臓の機種 コイル型 4

現在の透析室は四九年に二階屋上部分に増築された  
もので、ベット数四、透析者数六名（内、外来透析者  
三名）と規模は小さいのですが、それだけ医師や看護  
婦さんの目もゆきとどくというもので、安心して透析  
を受けることが出来ます。

透析に携わる看護婦さんは全員で六名ですが、手術  
室等も兼務しているためローテーションを組み、実際  
には二名が隔週ごとに透析室勤務ということになります。

看護婦さんは、

皆とても優秀、親切で（これは真実  
であります！）間  
違いなく全員女性  
のようです。親切  
といえば、透析中  
はいたれりつくせ  
りで、食前のおし  
ほりや看護婦さん  
に注いでもらう食  
後の一杯のお茶な  
どはまったくおい  
しい限りです。

また透析者のうち二名は高校生で、病院に併設され  
ている養護学校で元気に勉強に励んでおり（？）、それ  
ぞれがガールフレンドもいるように希望に燃えており  
ます。

さらに当病院は、看護学院も併設されているため、  
実習期間に入ると数日ごとに学生が二・三人ずつ透  
析室に勉強に来るのですが、その度に女性の若々しい  
新鮮な顔に接することが出来るのは当病院ならではの





ことかと思ひます。

以上

## 佐藤 医院

所在地 札幌市東区北十九条東七丁目

当医院は医師一名、看護婦四名、テクニシャン一名、栄養士二名、事務員二名、炊事婦二名のスタッフが、直接間接的に透析治療及び看護にタッチしている。

患者数は現在（九月十七日）二十四名で、男性十八名、女性六名、二十一才から六十二才迄の年令で、間もなく退院予定になっている一名を除いては、全て通院透析を行っている。

治療は週に六時間を二回の十二時間で、火と金曜日のみ午後一時半頃から準夜透析をしている。夜間透析を出来ない当院の現況では、せめて準夜透析を就職している人達全部にしてあげられると良いのだろうか、それもスタッフの都合上五名迄に制限している状態である。昼間に透析を受けて居る患者さんの中には、「私も準夜透析を受けられたら……」と、考えて居る方もあるだろう。透析日には例え半日でも、毎日職場へ顔を出せるという事は、精神的にも大分違うのだろう

とは思うのだが……。

各センターでは、それぞれ治療方針が有るだろうが、当院の基本は「食事療法」である。

透析食は確かに厳しい制限食だとは思うけれど、時々、食事を乱して顔をむくませ、苦しんで来院する患者さんを見る都度、食事療法の重要性を知らされる。

当院の栄養士は種々研究をして「これが透析食だろうか？」と、驚かされる様な美味しい献立を数多く作っている。いかに制限が厳しくても想意工夫によつては、とても美味しい食事が出来るものだ、私は充分に知らされた。当院の患者さん達は栄養士の指導によつて、特に偏食の多い人、どうしても透析食と仲よく出来ない数名を除いては、皆それぞれに努力してやっている様子である。

私はもう十年近くも透析患者さんに接しているが、透析食が普及していなかった頃は、患者さんは毎日、死の不安の背中合せの闘病生活だったのだたら、今の患者さんは種々の面で大いに恵まれていると思う。

私も他のスタッフも、これから先も透析患者さんの為に、種々協力をするつもりだが、周囲の人達の同情抜きの協力も望んでいる。

## 札幌北クリニックス

所在地 地下鉄北十八条駅より東方一五〇m南向

院長 今 忠 正

開院日 S四十九・十一・十一

現在のスタッフ

医師 常勤二名、非常勤三名

看護婦 常勤八名、非常勤九名

補助者 一名 技師 四名

栄養士 二名 調理士 三名

薬剤士 一名 ケースワーカー 一名

事務 一名

患者数 五十三名 昼間三十五名 夜間十八名

社会復帰率八十四%

### 透析装置

メラシニングルコイル、バック型人工腎

ギャンプロメージャー、フアローファイバーK12

ダスコシニングルバスコイル、循環ケースコイル

### 札幌北クリニックスの横顔

我々は「生きる仲間」第四号の発刊にあたり、当クリニックスのたとえ一端なりとも、腎友会の皆さんに知

つていただくことを、大変嬉しく思います。

当クリニックスは現在、約五十名の患者を抱え、院長をはじめ、事務にいたるまでスタッフ三十五名を数えます。

院長は大変寛大な精神の持ち主で、又研究熱心な方でもあられます。副院長は良妻賢母型で、院長の良き伴侶として、当クリニックスにおいては院長の留守を預かる必要不可欠な方であります。

看護婦連は、極めて明るく、透析室を力いっぱい明るくしてくれます。その元締、婦長は、推理小説が好きで、元気で、気さくな人柄は、患者、スタッフの皆から敬愛されております。

技師連は、年令も若く、我々と兄弟の様なつきあいをしております。

その元締の松沢技師は、スタッフの中で、唯一人、にくまれ役をかつています。彼はスタッフ全員の楯となつてゐるのです。

雨にも負けず、風にも負けず、スタッフ皆さんは朝早くから夜遅くまで我々の為に働いてくれています。

さて、我々患者ですが、現在、社会復帰率八十四%という高い復帰率を誇っています。夜間透析の如きは、戦場さながらの騒々しさです。野球中継の時などは、

春のソフトボール大会、1、2位独占記念スナップ



行くことを、誓いたいと思います。

阪神対巨人に分かれ、ワァーワァーと騒いでおります。最後に、我々は良い同胞と、良いスタッフに恵まれ、これからも明るい生活を続けて行かれることに、深い感銘を覚え、より一層の努力により、それぞれを大切に生活

## 市立札幌病院

所在地 札幌市中央区北一条西九丁目

医師 二名

看護婦 七名

患者数 約四〇名

透析開始 昭和四十六年十月

透析台数 一〇台

透析器種類

フオロロファイバー

ヘモダイアライザー

サンド

## 陸上自衛隊札幌地区病院

所在地 札幌市豊平区平岸七四七

患者数 六名

医療スタッフ 五名

## 田島クリニツク

所在地 札幌市北一条西二十一丁目 フジタビル五階  
 院長 田島邦好  
 設立 昭和五十年八月十一日  
 職員

医師	田島邦好	院長
	非常勤医師	二名
技師	田島道	(事務長)
		外二名
看護婦	松田紀美恵	計三名
		外九名
栄養士		計十名
補助看		一名
事務員		二名

現在、患者数は三十四名、全員が外来透析であるが、入院が必要な場合は階下の北一条病院（院長 藤田伊久雄氏）にお世話になっている。

ダイアライザーは十三台でそのほとんどがコイル型である。週のうち月曜日と木曜日は夜間透析も行っており、水曜日と日曜日は透析を休み透析機器の整備、

消毒などに当  
 っている。

開院してま

だ一年と三ヶ月ほどであるが、透析成績は極めて良好で、その結果は来る十一月の透析研究会で発表される事になっている。

次に主な職

員の横顔を紹介

します。

院長：北大第一外科出身で、北クリニツク院長先生とは同期だそうだ。昭和四五年から二年間、アメリカのオハイオ州にあるクリーブランドクリニツクの人  
 工内臓研究所で、主として人工腎臓、人工心臓などの研究をし、帰国後、国立西札幌病院の外科医長と



して勤務するかたわら、透析治療に従事していたが、透析療法は片手間で出来ることでないと一念発起し、十五年間持ちつづけけたメスをすて、透析治療に専念する決意をかためたそうだ。

昭和九年生れであるが、最近頭の頂上付近の反射が強くなってきたことを気にしている。ベストドレッサーを自称し、常日頃、紳士は一分位のすきを残すべきだと云っているが、第三者から見ると八方すきだらけと云った感じであるのを御本尊は気がついていない。職員、患者の和をモットーとして明るい家庭的なふん囲気作りを心がけている。趣味は囲碁四段、ゴルフはハンデ一十七の腕前。

事務長：院長の実弟で三二才、工科系の大学出身なので電気機械のメカには精通しており、透析機器の一切の管理もあわせて行っている。

気はやさしくて力持ち、職員の信任も厚い。夏冬通して黒い純毛の下着をつけているのが最大の特徴である。昨年からはゴルフを始めた。

婦長：院長と共に、国立西札幌病院の手術部に長い間勤務していたベテラン外科系婦長である。小柄では

あるが、丸顔に澄んだパッチリした瞳は彼女に接する人々を魅了せずにはおかない。年令は不明、透析技術はこの道五年の大ベテラン、患者、看護婦とも絶対の信頼を寄せている。院長の片腕である。

技師長：前川修氏は、当院唯一人の独身男性二十六才、若さにものをいわせ、早朝まだ暗いうちから、夜間透析が終るまで実に真面目に働く好青年である。玉に傷は、スキノ方面が好きなこと。目下花嫁を募集中。

看護婦：佐藤秀子さん。ママさん看護さんである。二児の母でありながら若々しいエネルギーにあふれ、お酒とダンスの好きな美しき近代女性である。年令は聞きわすれた。

若い看護婦さんのリーダーとして又、患者のよき相談相手としてその活躍はめざましい。

以上で田島クリニックの紹介を終わります。

(文責 大西政弘)

## 戸 沢 医 院

今年も又、「読書の秋」「食欲の秋」「人恋しき秋」「馬肥ゆる秋」と言われる季節がやって来ました。会員の皆様にはいかがお過してでしょうか。

今回「生きる仲間」に病院紹介と言う事で原稿を渡されましたので執筆させて頂きます。

戸沢病院が腎センターとして発足しましたのはオトソ気分も未だ抜け切れぬ今年の一月の日でした。

場所は南十九条西八丁目、環状線沿いに位置して居ります。

最初は医師一人（院長）、看護婦二名、栄養士一人、事務関係の男性一人の計五人で始めました。

我々の仲間も十人でしたが、今では二十人に増えております。

透析開始時間は午後五時から、仕事を終えてからの透析が第一条件です。

## 中 野 医 院

当院は札幌駅の北口より三丁北に位置するビルの五

Fにあり、外来専門の透析センターとし、S四十九・十二開院しました。

当時は小樽より来ている患者で高校生が一人居ましたが、通常の週二回昼間透析では卒業出来ず、休学してしまつた為、夜間透析を痛感し、当時北辰病院に勤務していたかたわら週三回だけ夜間透析を行えば卒業出来るとのことで開院したさいです。

約半年後に二股では体がもたないので正式に開院したのが四十九・四・一からでした。外来のみで入院施設がない為、緊急の入院が必要な時はいつも北辰病院の御世話になっております。

現在昼間、準夜間透析患者は二十六名でスタッフとし、院長一名、看護婦七名、見習い一名（看護学校通学中）、テクニシャン一名、栄養士二名、すいじのおばさん一名で運営しています。

当院は札幌市の中心にあり交通の便は良いが、反面、マイカーで来院する人の駐車場の確保がむずかしく、地価の良い場所でのセンター設置に問題点があります。以前は食事は持参して来てもらっていました、6Fに一室借りられたので、そこに調理場を作り、本年より給食を始めました。栄養士さん達の御苦労により、満足すべき食事と考えております。

患者さん、職員のとどいとし毎年海水浴を年中行事としており、今年も八月一日にレンタバス一台で望海に行きましたがいにく、波が高く、海に入れず、砂浜で豚汁を作り、甲らぼしのみで帰って来ました。

ビル開業による外来のみの透析センターとし約三年経過しましたが、色々の制約があり、患者さん達に十分満足出来る様な事が出来ませんでした。現在私達の持っている力をフルに使ってより良い透析を行い皆さんの社会復期に支障を来すことのない様、努力して行くつもりです。

## 北 辰 病 院

当院は昭和四三年九月、猪野毛先生、中野先生により血液透析療法を開始、現在までに透析導入を受けた患者さんは百三〇余名にもなっております。導入後ほとんどの患者さんは他のセンターへ転科し順調な生活を送っています。したがって現在当院で透析を受けている患者さんは何らかの合併症がある人達が多く、良くなりしだい、他院へと移ってゆきます。

これが当院の透析患者さんに対する役目です。

## 宮 岸 医 院

所在地 札幌市東区北四十八条東八丁目  
開設 昭和五十一年

事務 五名 看護婦 五名

医師 一名

患者数 三名

東八丁目通りを篠路方向へ進んで行きますと、白い二階建の病院があります。それが、宮岸医院です。住所は北四八条東八丁目、現在病院は、開院してまだ六ヶ月をすぎた所です。勤務員は、事務五名、看護五名、計十名です。入院施設もあり医院としては、大きい方ではないでしょうか。現在透析患者は三名です。機種はJMS、ベット、サイド、コンソールBOXを使用ダイヤ、ライザーは、M15、K12、R1P5です。現在三名ですけれど、まだ三台ありますので近くの方はどうぞ。透析時間は平均五時間です。本格的に始めたのが十月からで二ヶ月になります。勤務員はベテランばかりで透析中も安心してまかせられます。透析室にはベットはなく、自分で調整できるイスです。狭い部屋でも広く使えて良いと思います。簡単ですが、

病院紹介を終わります。

## 宮の森脳神経外科病院

所在地 札幌市中央区宮の森八一二  
患者数 五名

医療スタッフ 九名

市立札幌病院からも、患者さんが若干名透析を受ける為、通院している。

## 渡井 医院

昭和四六年六月に人工腎センターを目標として開業しました。初めはキール型人工腎二台のみで、セロファン膜張りを毎日せつせとやったものです。

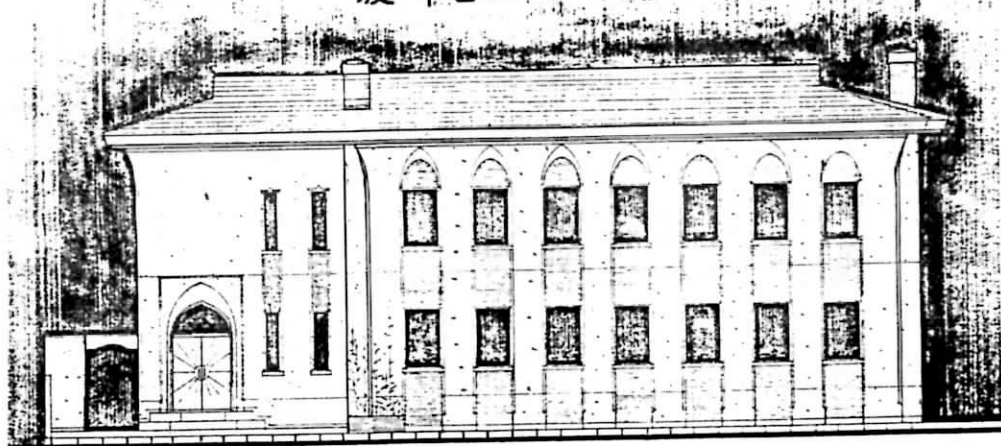
今年の六月で五年目を迎え、透析器はコルフ型十一台、ホローファイバー用コンソール四台、透析患者さんは三〇名となりました。

職員は医師二名（非常勤一名）、看護婦十三名（内非常勤五名）、検査技師一名、栄養士二名、透析技師二名、事務員三名と結構な大世帯です。

今までの建

物は事務所だったのを間仕切りして診療所にしたもので、透析センターとしては不完全なので、透析患者さんを主体とした医院に改築中です。同時透析は十八名位で、夜間透析は週三回です。通院透析用に患者さんの更衣室、休憩室を十坪程とつたのが特徴と云えるでしょう。

図定予成院院井渡





# 私の闘病記録

## 腎移植まで

(北大)

江良勲

健康な時には考える事も有りませんでした。腎臓病で倒れてから足掛け六年、苦しい毎日を経験して来た私は健康な身体をどれだけ夢見た事でしょう。

現在私は母からの腎提供を受け移植して一年半を経過しましたが、何分新しい治療なので将来的な不安は多少有りますが、生一杯健康を咬みしめ味わり、将来の計画を立てて居ります。

私の出身地は室蘭ですが、腎不全になつた時室蘭には透析病院がなく苫小牧市立に転院しましたが運動は勿論歩く事も困難でカルシウムが骨から抜け石灰沈着の為血管がつまり関節が腫れ激痛に悩まされその頃は皆外シャントで三〇回種の手術を受け中でも連続六日間最高六時間のシャント手術を行った時は流石に家の者も葬式の準備を決意した程でした。

入院一年数カ月の間何度も意識不明となり次々と

死んで行つた仲間と殆んど同じ苦しみの経過を辿り、毎日毎日只死ぬ順番の来る日を待つ地獄の苦しみの毎日でしたが、今、やはり苦しくても辛くても生きていて良かったと思ひます。

その頃は全国、全道にどれ程の仲間が居るのかも透析に対する知識も全く判らず、病院でも透析食もなく、腎臓食では長生きする事は出来なかつたでしょうが、先生が大変理解が有り、鍋、釜、炉等の持ち込みを許可して下さい、自分で食事を作って食べて居りました。

其の後、縁が有りまして札幌北辰病院へ転院しましたが、それまで原因不明だった色々な苦痛がすぐに取り除かれました。

其の後、北辰病院の猪野毛先生が開業の後先生の所へ転院し殆んど社会復帰の状態まで快復、一年半程、御世話になり猪野毛先生のアドバイスを受け北大で腎移植を受ける事となりました。

腎移植後、四十日程で退院出来ましたが移植後9カ月の間には、体重の増加、尿量の減少等の拒絶反応や顔が赤くなる満月様顔、ニキビ、腔内炎、お腹が出る頭がハゲる、手のふるえ、皮膚線状、etc等の薬の服作用や感染、腎臓を打つつけないか等の沢山の不

安が有りましたが現在それらの不安は殆んど有りません。

二、三年で良い適合性検査法が発明される可能性が

大きいとの事で、死体腎移植により誰れでもが移植を受けられる日が来る事を希望して止みません。

## 腎臓病患者の実態調査

この調査は全国腎臓病患者協議会(全腎協)の行なったもので、その中から興味ある部分を抜萃したものである。内容は、都府県より寄せられた五、〇六一名の腎臓病患者からの回答をもとに作成されたものである。

一、患者数 全国で約一三、〇〇〇人

男性 六三・〇% 女性 三六%

二、入・通院の区別 通院 七七・九%

入院患者は、女性が二五・四%、男性が一八・〇%

三、初診日から透析開始までの年数

- 一年未満 三六・四% 二年未満 一〇・二%  
 三年 " 九・三% 五年 " 一二・五%  
 十年 " 一八・四% 二〇年未満 一〇・五%
- 四、透析開始後の年数  
 二年未満 五六・三%  
 最近の透析患者の著しい増加を表わしている。
- 五、一週間の透析回数  
 一回 一・二% 二回 二八・九%  
 二〜三回 七・八%  
 三回 六二・五% 四回以上 〇・七%
- 六、一回の透析時間  
 五〜六時間が圧倒的に多い。
- 七、透析の時間帯  
 昼間 七八・五% 夜間 一二・四%  
 準夜 一〇・四%
- 八、透析による視力障害  
 三〇・三%が何らかの障害を持っている。そのうち、  
 五・四%の人が失明者である。
- 九、年金について 七〇・八%が加入  
 ほぼ全員の人が障害年金を受給している（年金加入者の七〇%）
- 十、現在、働いているか

- する。四〇・二% しない 五五・七%
- 十一、働いていない理由  
 働く意志がない 三・〇%  
 身体に自信がない 三四・三%  
 受け入れ職場、適職がない 二五・八%
- 十二、職種  
 会社員 三二・二% 公務員 一〇%  
 （男性の場合、右記で五五・七%を占める）
- 十三、生活保護を受けているが六%で、半数以上が、  
 生活苦を訴っている。
- その理由として、病気による収入減をあげている。
- 十四、患者の年間収入  
 一〇〇万円以下 四九・一%  
 2<sub>3</sub>は一五〇万円以下の収入しかない。
- 十五、移植（腎）希望者  
 希望する 四六・六% しない 四二・六%  
 死体腎 五九・二% 両親 一四・四%  
 兄弟 一六・九%
- 十六、希望しない理由  
 成功率がもっと高まってからというのが多い。
- 以上



## 編集後記

「生きる仲間」第四号がやっと出来上がりました。

原稿の準備から始まって約五ヶ月。

編集も、予期しない支障から遅々として進まず、九月下旬発刊の予定が今日になってしまいました。この間、会員の皆様には、多大なご迷惑をおかけいたしました。したが、ようやく、日の目を見ることが出来ました。

この欄をお借りして、原稿をお寄せ下さった方、又、いろいろとご協力下さった方々に、深謝いたします。

最後に、札幌市内のセンターには、三〇〇余名の患者さんがおりますが、会員には、二〇〇名足らずの患者さんしかおりません。この機会に、広く、患者さんに会員をなることをお奨めしたいと思います。

昭和五十一年十二月発行

発行所 札幌市北区北十八条西一丁目

札幌北クリニック内

札幌腎臓病患者友の会事務局

電話 七四二一七一一番

印刷所

札幌市東区北四五条東八丁目  
草木舎印刷

電話 七五一一六〇四二番